

2013.9月

品質月報

Monthly Quality Report

9号 INDEX

9号 INDEX

PAGE 3 ……品質方針

PAGE 4 ……今月のトピックス

★ 今月のテーマは…
「JR北海道のレール異常放置問題」

PAGE 5 ……今月の品質状況

市場不良率推移

PAGE 6 ……品質状況詳細

市場不良発生状況(工程別、客先別)

PAGE 7 ……品質状況詳細

クレーム発生状況(クレーム発生推移、客先別)

PAGE 8 ……活動報告

SSG技術発表会



SANSHIN GROUP



品質方針

サンシングループは、商社・開発技術・要素技術 これら3つの機能のシナジー効果と品質マネジメントシステムの効率的な運用により、お客様のニーズを満たす製品開発と安定的な製品供給をおこない、電機業界および社会へ貢献して参ります。

1. 事業活動において、いかなる場合も品質マネジメントシステムを厳守し、お客様に信頼される品質の提供につとめて参ります。
2. 企業活動に係る法規制およびその他の要求事項に関して、コンプライアンスの遂行を通し品質の向上につとめて参ります。
3. 各々のグループ会社および事業部において、事業活動に応じた品質マネジメントシステムの継続的な改善につとめて参ります。
4. 品質マネジメントシステムは、定期的な内部監査・マネジメントレビューをおこない、実態に沿った具体的な改善をはかって参ります。
5. この方針は文書化し、当グループのステークホルダーに対して開示をおこない、当グループの諸活動に関わるすべての人々によって一步一步、着実に具現化して参ります。

平成18年7月1日
サンシングループ
代表 石井宏宗



石井宏宗

今月のトピックス

JR北海道のレール異常放置問題

今話題のJR北海道のレール異常放置問題について取り上げます。

なぜいつまでたっても事故が続くのか？

JR北海道では特急列車の火災や貨物列車の脱線、それに運転手による自動列車停止装置(ATS)の破壊が続いている。

この4月からでも出火事故が4件、貨物列車の脱線が2件、それに運転手のATSの破壊や信号無視がそれぞれ1件、これではJR北海道の列車にはおちおち乗れないことになる。

特に事故が集中しているのが函館線の管区でここは何か事故を起こす構造的な原因が潜んでいるようだ。(9件の事故・事件のうち函館線管内は6件)

9月19日に発生した函館線大沼駅構内の貨物列車の脱線事故では、整備担当者が1年にわたって線路の整備を怠っていた。

社内の内規では20mm以上線路幅が拡大すれば釘の打ち直しが必要だが、昨年10月の検査で20mm、今年6月の検査で25mmになっていたのだが補修しなかったという。もっとも事故が起こる理論値は43mmだそうだから、「まあこの程度なら実際は事故は起こらないだろう」と現場では考えていたようだ。

だが今回の事故は25mmなのに事故が起きたのではなく、実際は43mm以上開いていたのではないかと疑問がある。当初、JR北海道の説明は20mm以上の箇所は今回の事故を含めて9か所だといったが、翌日には97か所だと訂正された。

JR北海道では現場からの報告は常に虚偽があり、調べなおすと内容が大幅に変わる。どう見ても現場と本社間には正確な意思疎通が欠けており、意図的に虚偽の報告をするのが日常化している。

北海道には札幌を除いて大都市と言えるような都市がない。さらに北海道全体では毎年のように人口が減少しており、特に東部や北部からは人口が激減しており、特定の路線以外は赤字続きで廃線の一步手前だ。こうした状況下でなおもJRを維持しようとするれば経費を削減し(現場サイドでは手抜き工事になる)、また職員を退職させるか給与を引き下げる以外に手はない。当然職員の士気は低下するし労使紛争は激化する。

JR北海道の事故の多発原因は、本来JRがすでにその大都市周辺を除きビジネスモデルとして成り立たなくなった場所で、なお経営を維持していかなければならない経営体の苦悩と言える。



大事故や大事件は、ほんのささいなミスが要因となっているケースが殆どである。小さなミスの見逃し、先送り、慣れからくる慢心、コスト削減一辺倒による安全の手抜き、コミュニケーション不足から陥った組織の機能不全。

本件については、あらゆる場面において、弊社の業務に当てはめられることができると思われ、この事例を他人事とせず、教訓にしなければいけないと感じました。

(品証 林)



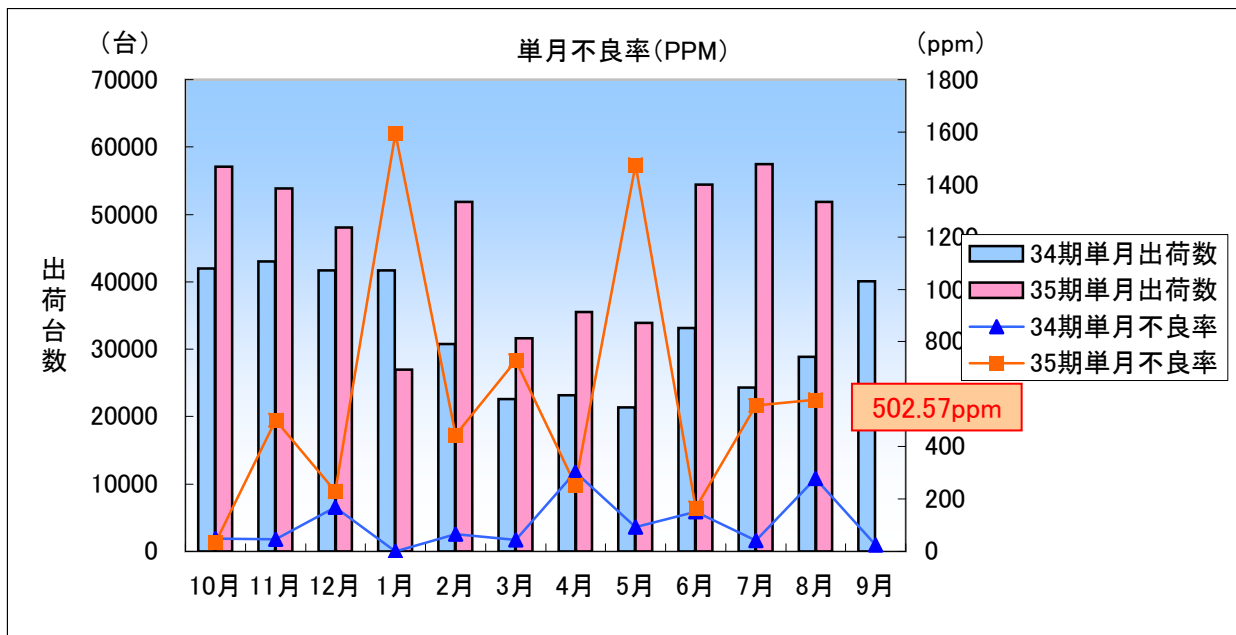
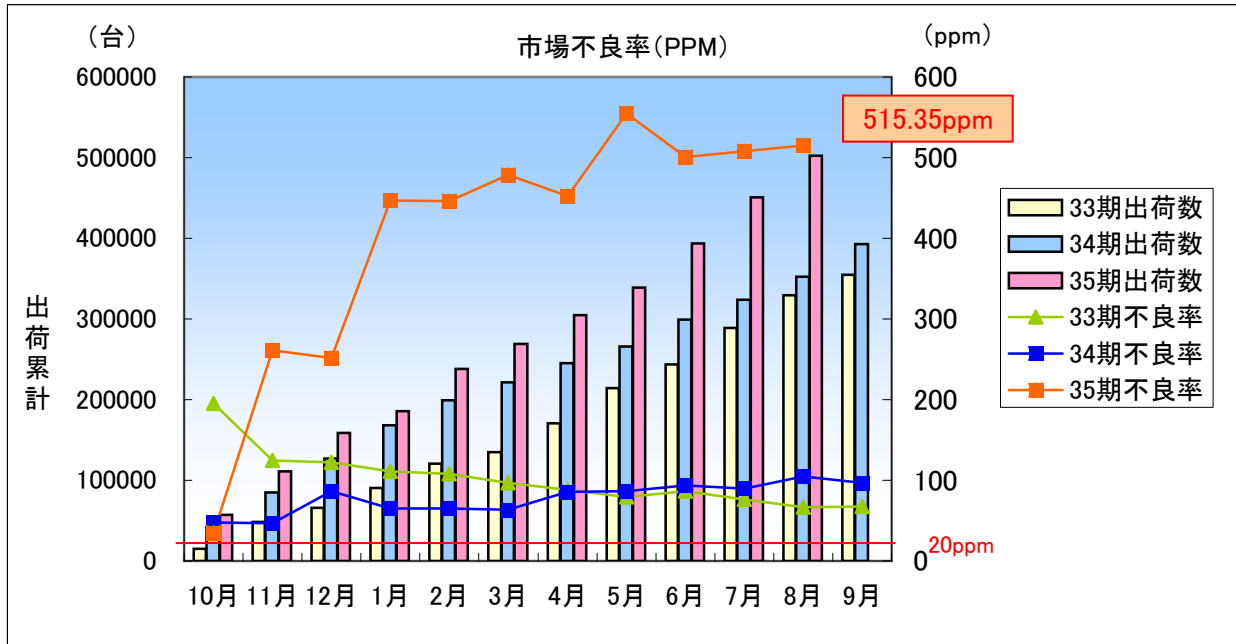
今月の品質状況

35期の旗印

納入不良率 目標……20ppm

35期の累計不良率は**515.35ppm**です。

部品不良 225件 (447.69ppm) その内、MOSFET部品不良は累計で188件。
 全体の不良の86%を部品不良が占めている状態です。
 特にLED電源でのMOSFETの不良発生が多く、この対策に着手しております。

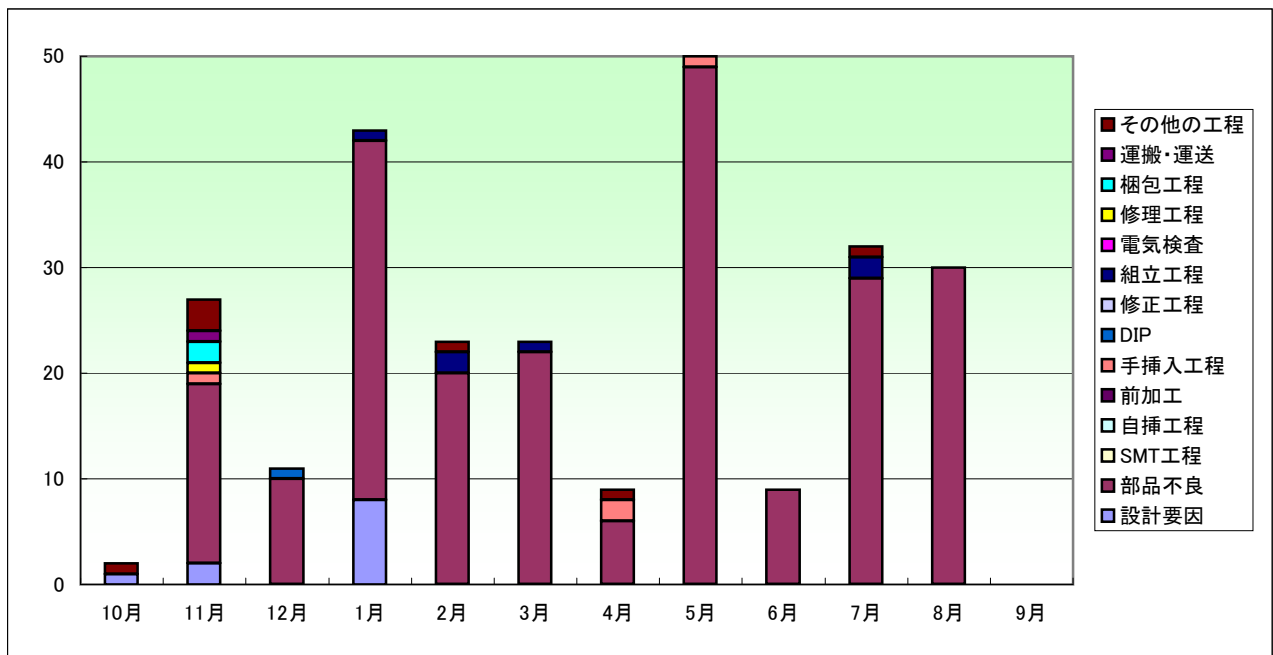


8月の単月不良発生率は30件発生で 502.57ppm です。
 30件は全て部品不良で、その内の29件がLED照明用電源となります。
 LED照明用電源の部品評価基準の見直しを行うこととします。

品質状況詳細

原因別、並びに工程別市場不良発生状況

工程別不具合



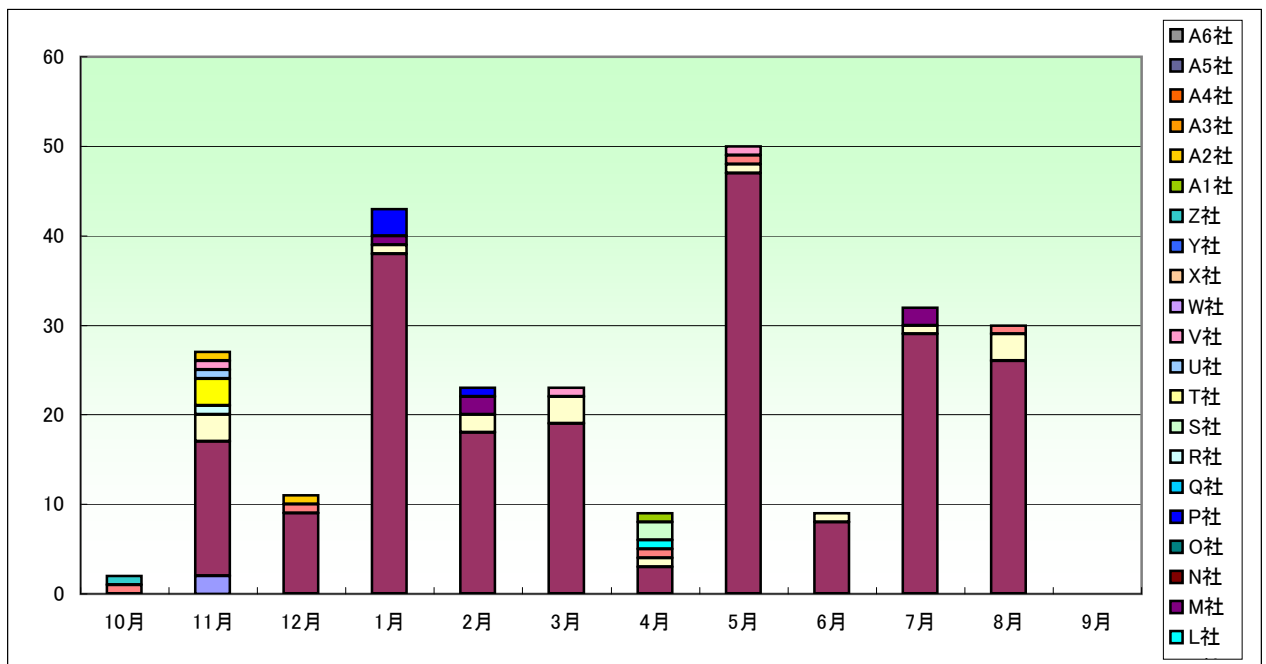
8月の工程別不具合

部品不良 30件です。多発原因は猛暑も一因と思われます。

今期の工程別不具合の累計は以下となります。

部品不良 225件、製造不良 15件、設計不良 12件、その他 7件 合計259件

客先別不具合



客先別累計不良発生率

B社 212件/35,100台 (6040ppm)

S社 2件/1,250台 (1081ppm) 変化なし

P社 4件/3,767台 (1058ppm) 変化なし

M社 5件/4,980台 (836ppm) 変化なし

K社 3件/3,600台 (732ppm) 変化なし

U社 1件/1,000台 (1000ppm) 変化なし

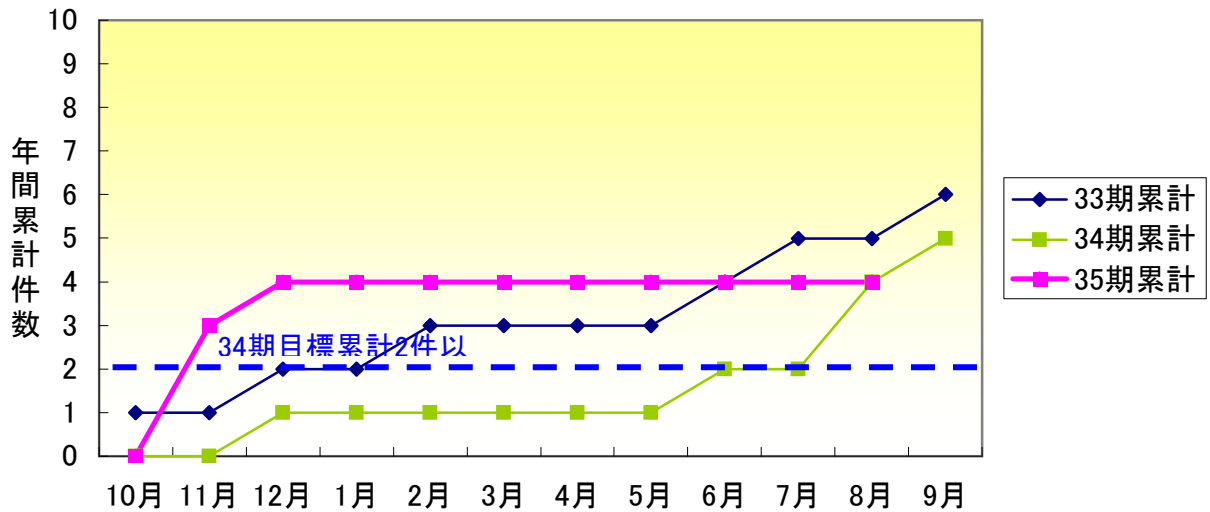
品質状況詳細

クレーム発生状況

クレーム発生推移

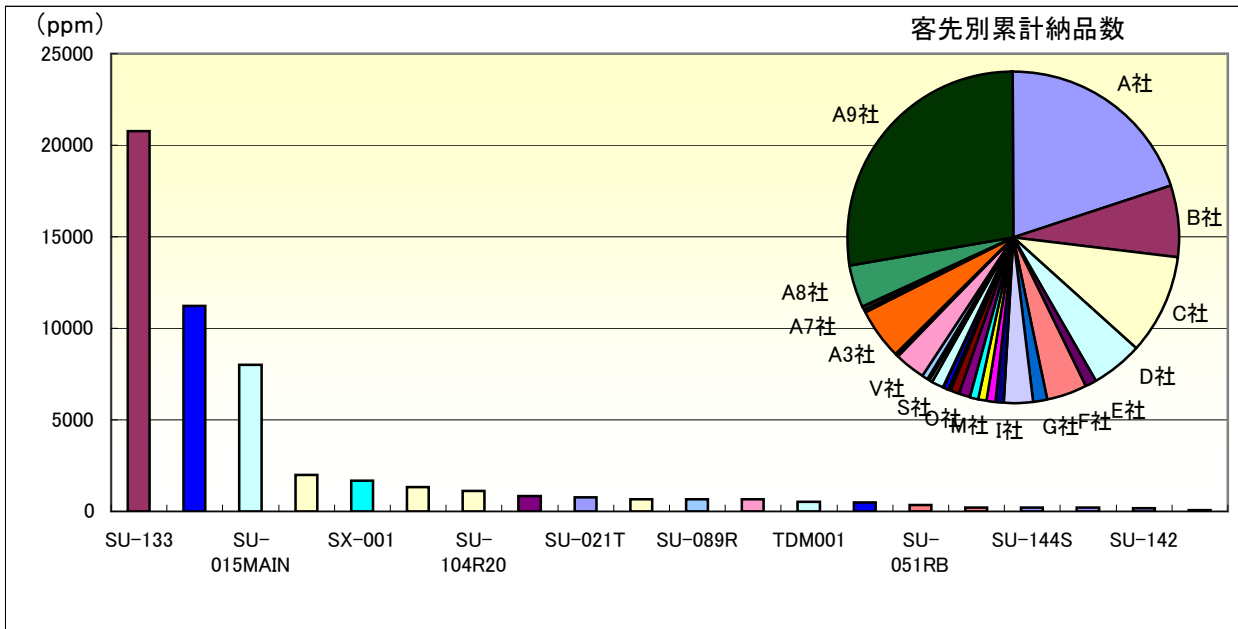
「クレーム」の定義: 当社製品がエンドユーザー様にて使用中に
当社の責任による原因で不具合が発生し、見直し・改修の場合

対前年度クレーム件数推移(35期)



8月 新たなクレーム不良は発生していません。

機種別累計不良率



機種別累計不良率(不良率ワースト5)

機種	客先	不良数/納品数	単機種不良率
① → SU-133	(B社)	208件/10,020台	20758ppm
② → SU-102R2L	(P社)	3件/267台	11236ppm変化なし
③ → SU-015	(S社)	2件/250台	8000ppm変化なし
④ ↑ SU-090RN3	(C社)	1件/500台	2000ppm
⑤ ↓ SX-001	(L社)	1件/600台	1667ppm変化無し

開発技術部の活動報告

『SSG技術発表会』開催

SSG各社の部門での日頃の業務活動の成果をSSGの方々に発表する場として、9/27に『SSG技術発表会』が開催されました。

これまでも開発技術部主催で「技術交流会」として毎年実施されておりましたが、今回からはSANSHIN大学のプログラムのひとつとして組み入れられております。

第一回の今回の発表は下記のテーマおよび発表者で開催されました。

1. 「電源の電子負荷、LED負荷など自動測定システムについて」
SSD開発技術部 開発設計G グエン・クアン氏
2. 「電源品質向上の規格について」
SSD品質保証部 品質保証G 篠原貴志氏

SSGの各部門から多数の視聴参加の方がいらっしゃいましたが、「二人とも非常に分かりやすく、よくまとめられていた」とご好評をいただきました。

発表会の風景



第二回『SSG技術発表会』は2014年3月28日に開催する予定です。次回も多数の方々の視聴参加をお待ちしております。



また、発表会の最後に、佐竹専務から「シーテックジャパン2013」に出展するSSGの製品についての説明がありました。「スイッチング電源」「DC/DCコンバータ・ハイブリッドIC」「パワーインダクタ・フェライトコア」などが展示されます。ぜひ足を運んでみてください。

シーテックジャパン2013
10/1～5 10:00～17:00 幕張メッセにて開催